



図書館だより NO. 9



丸亀市立綾歌中学校 令和5年 1月号

新しい年となり暦の上では、はや「小正月」を迎えます。元旦から7日までを「大正月」と呼ぶのに対し、15日を中心にした数日間を「小正月」と呼ばれます。小正月は、無病息災を願って「どんど焼」などの行事が各地で行われます。

図書館では伝統行事に関する本を展示していますので手に取ってみてください。今年も素敵な本と出会えることを願っています。

二十四節気 〈小寒・大寒〉

冬至から15日目にあたる、寒い冬に入る頃を「小寒」と呼び、冬の一番寒い時期を「大寒」と呼びます。2023年の「小寒」は1月6日、「大寒」は1月20日です。

「小寒」の日は“寒の入り”で、この日から立春前日の「大寒」が終わる日までを“寒の内”と言います。この間は一年で最も寒い時期です。



卯年

今年卯年。卯年生まれの人は、997万人（R5. 1. 1）だそうです。もともと十二支は植物が循環する様子を表していて、四番目の卯年は「目を出した植物が成長して、茎や葉が大きくなる時期」とされています。またウサギは飛び跳ねることから、飛躍する象徴となっています。

目標に向かって、大きく飛躍できる一年となるといいですね。



2学期多読賞発表

2学期の多読賞（クラス部門）を発表します。綾中総貸し出し冊数は762冊でした。

クラスランキング

第1位	2年3組	141冊
第2位	1年1組	108冊
第3位	3年3組	101冊

図書館おみくじ

1月恒例イベントとして、綾中図書館では本を借りると1回おみくじを引くことができます。

おみくじには、著名人や本の登場人物の名言が書かれています。グッとくるフレーズに出会えること間違いなし！



クリスマス企画～サンタさんへの本のリクエスト～

図書館に入れてほしい本を募集したところ、たくさんの応募がありました。ありがとうございました。その中から6冊を選びました。まもなく届きますので楽しみにしておいてください。

『満月珈琲店の星詠み』望月麻衣



満月の夜にだけ開く不思議な珈琲店。優しい猫店主が煎れるコーヒーと「星詠み」が、訪れる人々の心を癒していきます。

『BUTTER』柚木麻子



週刊誌の記者が、殺人容疑で逮捕された女性と面会し、真相を探ろうとしました。すると彼女は、記者にあることを命じます。

『十角館の殺人』綾辻行人



大学ミステリ研の7人は孤島に立つ十角形の奇妙な館を訪れました。その館の建築家が関わった建物では必ず殺人事件が起こるのでした。

『レベル7』宮部みゆき



「Level7まで行ったら戻れない」という言葉を残して、一人の女子高生が失踪しました。言葉の意味と彼女の行方は一体…。

『図書室の怪談』緑川聖司



中学1年の主人公は、ある日図書室で「悪魔の本」を見つけます。読み進めるにつれ、自分の周囲でおかしなことが起こり始めました。

『家ねこ大全285』藤井康一





SNS で人気の現役獣医師が、猫の本音から不調の原因までを解説しています。知識と愛情がたくさん詰まった本です。



〈単行本〉

新しく入った本

月の立つ林で 	青山美智子	つますいてばかりの日々の中、“タケトリ・オキナ”という男性のポッドキャスト『ツキない話』を耳にした5人。彼らはオキナの月に関する語りを聞き、かけがえのない毎日を紡いでいこうと歩み出しました。
ひまわりは恋の形 	宇山佳佑	大学生の向日葵は、「桜の花びら集めてみませんか？…ただし受け渡しは8月」というバイト広告を見つけました。不思議に思いながらも契約し花びらを集め始めました。依頼主には、8月でないと会えない重大な秘密があったのです。

〈文庫・既刊シリーズ本〉

虹いろ図書館	司書先輩と見習いのほく	櫻井とりお	レイワ怪談 青月の章	ありがとう・あみ
銭天堂番外編	あやし、おそろし、天国園	廣嶋玲子		